

越前町議会・令和4年9月定例会一般質問【中西 清議員】

(令和4年9月8日 午前10時01分 開始)

○6番(中西 清君) 議長のお許しをいただきましたので、これから一般質問をさせていただきます。

学校給食の無償化に向けた来年度予算の検討方法について。

今年度は3学期、無償化を予算していただきました。一歩前進と評価しています。これから来年度予算の検討が始まりますが、完全無償化が難しい場合、ぜひ、全学期、半額無償化、または、2学期分の無償化に向けて、前向きに検討を期待しています。今後の検討状況、あるいは検討方向についてお伺いします。少なくとも、町長任期4年間に完全無償化の町公約を実現してほしいと思います。お願いします。

○議長(笠原秀樹君) 町長。

○町長(青柳良彦君) それでは、中西議員のご質問にお答えいたします。

学校給食費の無償化につきましては、令和3年6月定例会の一般質問でも答弁いたしました。本町における事業等の効果を十分検証し、取捨選択をしながら、本年度においては財源を確保し、3学期分の給食費無償化に係る予算を計上させていただきました。今後、来年度の予算編成が始まりますが、昨今の日本を取り巻く経済状況は、ウクライナ情勢と新型コロナウイルス感染症の影響の長期化により非常に不安定であり、物価の高騰等により、燃料費と給食賄材料費の値上げに直面しているところでございます。

給食費の無償化は、こうした要因を含め、大きな財政負担を伴うものでありますので、持続可能な行財政運営に支障を来すことのないよう、財源の確保に努め、引き続き任期中において実現できるよう努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長(笠原秀樹君) 中西 清君。

○6番(中西 清君) 新型コロナウイルス感染症が長引く中、経済不況の下、賃金は伸びず、円安の要因で、物価は異常な高騰が続く中、町民の生活は大変厳しいものとなっています。特に、子育て世代の生活負担は、単発的に一時的な支援はありますが、苦しい状況は変わりません。今回の無償化への一部実現について、町民の声は、特に対象となる保護者の反応は、一様に大いに喜ばれています。この事業を活用するには、子育て世代への大きな支援となる過疎化が進む町にとって、町民の安定化、人口減少の重要な施策になると考えます。県内の市町村において、これまで永平寺、高浜、大野に続き、坂井市、あわらが、この事業に取り組んでいます。国の子育て支援にも、学校給食無償化が上がっています。この事業が他の市町村の目標となるような方向をもって、今後、完全に無償化に向けて努力してほしいと要望します。

それでは、来年度の3学期は間違いありませんか。無償化はそのまま。

○議長(笠原秀樹君) 中西君、通告書に出ていない質問はやめていただきたいと思ます。

○6番(中西 清君) 関連していいんじゃないですか。

○議長(笠原秀樹君) 町長。

○町長(青柳良彦君) 今ほどのご質問、来年度の3学期につきましては、今これからの

予算編成が始まりますので、財源等確保しながら検討していくということで、また3学期にとどまらず、また拡張ということも念頭に置いておりますので、ご理解をお願いいたします。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） 今の言葉ですと、3学期は确实という方向で聞こえないんですけども。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 来年度3学期分は予算化してまいります。

以上です。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） 分かりました。ありがとうございます。

次に、地域づくり、まちづくりの実情と今後の方向について。

国が進める地域おこし協力隊を本町に受け入れていますが、これまでの人数、具体的な地域協力隊活動とその評価、3年を超えて定住につながった人数、町民の周知、理解等についてお伺いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、お答えいたします。

地域おこし協力隊は、都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を移動し、地域ブランドや地場製品の開発、販売、宣伝等の地域おこし支援や農林水産業への従事、住民支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組みとして、総務省が平成21年度にスタートさせた制度です。任期はおおむね1年から3年未満で、当町では、平成25年から受入れを始めました。以降、今日まで、6人の隊員を受け入れてまいりました。

活動内容といたしましては、1人目の隊員は、上岬地区の維持活性化及び移住促進施策に係る活動を行いました。2人目の隊員は、観光誘客の促進及び地域の魅力の情報発信。3人目と5人目の隊員は、移住コンシェルジュとして、移住・定住の推進。4人目の隊員は、農業支援員として、農業の支援及び地域の情報発信に関する活動を行いました。今年4月から受け入れている6人目の隊員は、現在、主に空き家対策に係る活動をしております。いずれの隊員も、地域の課題解決や地域おこしに取り組んで、積極的に地元の住民と関わりを持ち、地元住民の気づきや自主活動のきっかけになるなど、地域づくりの一翼を担っていただきました。

これまでに、3年間活動された隊員は5人中2人で、うち1人の方は、当町に定住はしておりませんが、現在、越前町観光連盟に勤務しておられます。

なお、令和3年3月末時点の総務省の報告では、任期終了後、およそ65%の人が同じ地域に定住しているそうです。これまでに当町で受け入れてきました地域おこし協力隊の隊員で定住された方はおりませんが、地域おこし協力隊は、町外での経験や客観的な観点を地域づくりに還元できる貴重な人材です。活動内容も広報えちぜんでお知らせするなど、町民の皆様にも広く周知されているところです。今後は、当町に来られた隊員の方には、1年でも長く、地域の発展や情報発信等に寄与していただき、活動終了後も引き続き当町で活躍していただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） 地域おこし協力隊に関しては、町がどれだけ刺激を受け活性化したか、町民の生活にどのように波及があったか、また見込まれるか、今後どのよ

うな分野でなるか、その分析を伺っています。その点について、町長の所見をお伺いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 今後も、今現在、6人目の方が隊員、空き家対策等、当然、越前町、空き家の問題は重要な問題ですので、空き家対策と、その都度、重要な町が抱えている問題について、地域とともに活動していただけるような方策を、これからも、町も後押しをしていくという考えでございます。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） 先ほどの答えの中に、全国では65%が地域に残ったというような話を聞きましたけれども、今までのところは、越前町は少ないと思いますので、今後はどのようにしたら活動していただいた方が越前町に残っていただけるかを、町としてサポートして、協力隊自身が、仕事もそうですけれども、その人が町民になれるように、越前町としてサポートしてほしいと思います。

それでは、次の質問にかかります。

まちづくり、地域づくりは、町民の現状や課題、町民の思いを、よく周知している町職員に、住民による検討会や懇談会、財政面の支援が重要と考えます。必要に応じて、地域おこし協力隊との連携、地域コミュニティ運営委員会、まちづくり部会などを連携して進めてはどうか、町長のお考えをお伺いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 地域おこし協力隊につきましては、先ほど申し上げましたとおり、客観的な観点や町外での経験を生かして、地域の課題解決や地域おこし、情報発信と、今後もまちづくりの推進に尽力していただきたいと考えております。

一方、地域コミュニティは、安定的かつ継続的な地域におけるまちづくりを推進するために欠かすことのできない存在です。現在、町内の4地区に地域コミュニティ運営委員会があり、町では、地域コミュニティ交付金を交付して、地域の特性や自立性を尊重し、まちづくりを進めていただいております。地域コミュニティ運営委員会の役割は、地域で活動する人材の育成や地域資源の有効活用に積極的に取り組み、地域におけるまちづくりを進めていただくことです。これまでに、朝日地区では、古墳公園の遊歩道や子ども広場などの周辺清掃や、健康講座などの高齢者教室、宮崎地区では、コミセン夏まつりや風鈴づくりなどの越前焼体験教室、越前地区では、越前海岸と四季と暮らしを題材にした写真コンテストや地産地消を促進するふるさと料理教室、織田地区では、おたまつりや織田の今後を考える会など、地域の特色に応じた事業を展開していただいております。

また、地域コミュニティ運営委員会の活動におきまして、防災に関する研修や地域での公共交通の時刻表作成に当たり、職員が出向いて話し合いをさせていただくなど、必要に応じて関係課と連携を図っているところでございます。

町といたしましても、今後も地域に暮らす人たちの思いを生かした地域づくりを実現できるように、地域コミュニティ運営委員会と連携を図りながら、町政に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） 今ほどの質問の主意は、職員自らまちづくりの施策、企画立案、町として実施することを提案しています。これまで、縦割りの個別の支援でなく、優秀なベテラン、中堅職員を中心として、各課横断的なプロジェクトチームを設置して、地域おこし協力隊、地域コミュニティ運営委員会や専門的な知識を持った町民の力を借りながら、各地区、地域の文化や歴史、風土、人のつながりの中

で、町民が元気で安心して暮らせるまちづくりを進めるルーティンワークの外注や、業務の効率化、職員のスキルアップ、専門的な職員の養成などを図り、積極的に政策立案できるシステムが、これからの町政に求められると考えます。この点に対して、改めて町長の所見をお伺いします。

○議長（笠原秀樹君） 町長。

○町長（青柳良彦君） 今ほど答弁いたしましたとおり、ある地域の特性を生かして、特徴をもって今後進めていくということ、そしてまた、職員もこの組織横断的な知識、またベテランの職員もコミュニティセンターに配置しておりますので、そういったことを総合的に含めて、まちづくりを進めていくということを考えております。

○議長（笠原秀樹君） 中西 清君。

○6番（中西 清君） これで私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

（午前10時17分 終了）